



令和元年10月11日  
第442号  
新発田市立東豊小学校

ホームページ <http://toho.shibata.ed.jp>

## 苦しい経験が自己を成長させる！

校長 高橋 祐二

朝晩、めっきり涼しくなり秋が深まりました。季節の変わり目は、体調を崩しやすくなる時期ですね。子どもも大人も体調管理には、十分に気をつけて欲しいと思います。

さて、爽やかな季節となりましたが、秋はスポーツの季節です。みなさんは、体を動かすことが好きですか？特に、走ることはいかがでしょうか？近年、健康志向？もあり、ジョギングやウォーキングなど、実践される方が増えています。早朝のサイクリングロードでは、思い思いの服装をした市民の姿を見ることができます。

学校では、体力アップを目的に全校マラソン大会を実施しています。そして、体力アップ以上に大切な目的は、**自己の目標を設定し、粘り強く練習に取り組むこと**を通し、**忍耐力や達成感、充実感を味わわせること**です。また、**仲間と苦しい練習を乗り越えたり競い合ったりすること**を通し**連帯感を育むことも大きな目的**です。長い距離を走り、仲間と競走したりタイムを競い合ったりするわけですので、どの子ども、とても苦しいことでしょう。中には、ゴール後、倒れ込んでしまう子もいます。このマラソン大会、全校の子どもたち全員が、「よ～し、がんばるぞ～」と意気込みを持って参加したわけではないでしょう。走ることを苦手とし、マラソン大会なんて無ければいい！と思っている子も相当数いるものと思います。そして、すべての子が、自分の思い描く結果を得られるわけではありません。私は、大会当日、ゴールで決審をしていました。子どもたちのスタート前の緊張感、そして、ゴールまで歯を食いしばって、最後の力を振りしぼりゴールする姿。子どもたちの姿に感動しました。中でも、印象に残ったのがY君。Y君は、走ることが大？の苦手。いつも、「マラソン大会なんて無ければいいのに」と呟いている子でした。これまでY君は、走って辛くなると歩き出してしまい、職員や応援者から励まされ、何とかゴールにたどり着いていました。そんなY君なのですが、今年も辛くなり多少歩いた時もありましたが、ゴールまで、ほぼ完走しました。ゴール後、Y君に、「よく頑張ったね！」と声をかけると、はにかみながら笑顔をのぞかせてくれました。

9月26日（木）には、6年生の親善陸上大会が実施されました。今年も、1学期から練習を積み重ね、多くの子どもたちが、大会では自己ベストの記録を収め、素晴らしい活躍を見せてくれました。

私は、このマラソン大会、陸上大会を通し、子どもたちに次のようなメッセージを送りました。

仲間と順位やタイムを競うこと。自分の目標を達成できる人もいれば、達成できない人もいる。人と競技することは、勝った人だけ、目標を達成できた人だけが、価値のあることだろうか？競技は、人（チーム）と競い合うことだけど、結果として負けた人（チーム）、目標できなかった人にも大きな意味がある。競技（大会）まで、一生懸命、練習し努力してきたことは、必ず、君たちの血となり肉となる。そして、君たちの精神力を逞しくしてくれる。なので、すべての人に、マラソン大会（陸上大会）は、とても意味のあることなんだよ。これからも、この経験を生かし、苦しいことがあっても乗り越えて欲しい。そして、マラソンや陸上は、個人で行うことが基本。なので、個人の力や努力が結果として出る。でも、自分の結果、特に勝った人（目標を達成できた人）は、自分の力だけではない。自分を指導してくれた人、応援してくれた家族や仲間の存在を忘れてはいけない。感謝の気持ちを持って欲しい。そして、勝っても、よい成績を収めることができても、おごらず、謙虚な気持ちを忘れないで欲しい。

先日、市内の小学生が交通事故で亡くなるという、とても悲しい出来事がありました。あらためて、交通事故の悲惨さと命の大切さを痛感しました。本校でも、平成4年に女子児童が交通事故で亡くなっています。

二度と痛ましい事故が起きないように、保護者、地域の皆様とともに、子どもたちの安全・安心を見守っていきたいと思います。ご協力を宜しくお願いいたします。